

地理空間情報技術の最新動向を紹介する「G空間EXPO」が28日に開幕した。会場は東京都江東区の東京ビッグサイト。15回目の開催になる。テーマは「G空間がつなぐ、広がる、未来が変わる」。会期は30日まで。オンラインは2月13日までの開催を予定している。主催は日本測量協会

（日測協、清水英範会長）ら12団体で構成するG空間EXPO運営協議会。

28日の開会式には、国土交通省の鶴田浩久総合政策局長、河瀬和重国土地理院長、日測協の清水会長らが参加し、テープカットで開幕を祝つた（写真）。冒頭、鶴田局長はG空間情報の度活用などが「国際競争力

G空間EXPO開幕

日測協らあすまで
地理空間情報技術が集結



の強化や地域の発展に欠かせない」と述べた。国交省政策統括官付地理空間情報課地籍整備室は本年度創設の「ミチセキアワード2025」の表彰式を同日に開催。土地の戸籍とも呼ばれる「地籍」の整備に取り組む自治体や事業者を表彰する。地籍調査は精度の高い土地境界情報の整備が目的。16団体の応募があり、津市を25年度の大賞に選定した。

29日は宇宙飛行士の野口聰一氏が基調講演する。「宇宙と地球がつながるG空間社会の未来へ」をテーマに、宇宙開発とG空間情報の連携がもたらす展望を語る。

G空間EXPOと親和性のある防災産業展、グリーンインフラ産業展、国際宇宙産業展「ISIE」も同時開催。四つの展示会は日刊工業新聞社が主催している。